

## 令和元年度第1回JSC運営点検会議 議事要旨

日時：令和元年6月6日（木）10：00～12：00

場所：日本スポーツ振興センター本部事務所 大会議室1

出席者：柏木委員長、小林委員、佐野委員、芝委員、中屋委員

大東理事長、小菅理事、今泉理事、勝田理事、矢神理事 等

欠席者：高橋委員長代理、三屋委員

### 1. 議事

#### (1) ご意見に対する対応状況について

資料1に基づき、小菅理事からご意見に対する対応状況を報告した。

#### (2) 令和元年度 内部統制アクションプランの実施状況

資料2-1、2-2に基づき、小菅理事から令和元年度内部統制アクションプラン（全項目・重点事項）の実施状況を報告した。また、資料2-3に基づき令和元年度JSCクロスミーティング実施計画・方針を報告した。

#### (3) 平成30年度 職員意識調査分析結果

資料3に基づき、小菅理事から職員意識調査分析結果を報告した。

[委員からの主な意見等 ○：委員、▲：JSC]

○：行動指針・風通しの項目で、好事例を共有したいとあるが、具体的にはどのように共有する予定か。

▲：よい数値となっている部署に対し、経営戦略室が個別にどのような取組をしているか等、ヒアリングを行っている。ヒアリングをした各部の推奨すべき取組を全体に広めている。

○：全体を通してみると、学校安全部のスコアが他の部署と違いがある。何か特別な対応が必要ではないか。特に前年度との比較で『内部統制の理解度』が5%下がっている。以前、学校安全部は契約職員の割合が多いと聞いているが、契約職員が入れ替わったことが原因であれば、職員が多い部署よりも多くの対応が必要になってくるのではないかと。また、外部からの要望で『災害事例等の情報を聞きたい』との意見があるが、外部に対し、今後どのように取り組む予定か。

トータル的に見て、部署の違いがあると思うが、自由記述の部分では、上司へ相談しやすいという意見の一方で、スピード感がない、管理職が管理していない等との記載がある。せっかく自由記述してくれたので、それに対しどう対応していくかお聞きしたい。

▲：学校安全部の結果について、半数程度が非常勤職員であり、人の入れ替わりも多いため、なかなかセンター全体と意識がそろわないというところがある。できるだけ、意識を統一するために、ご指摘を踏まえて対応策を考えたい。

『災害事例等の情報』については、災害共済給付を通じて得たデータをフィードバック

クしている。また、事例を通して、災害の防止につなげていくということは、J S C に課された課題であると認識している。全国の先生方の研修に J S C から講師を派遣する等の活動は今後も継続していきたい。

- ▲：調査結果については、今後このデータを加工し、個人が特定されないような形で、各部長職にフィードバックする。その結果を踏まえ、各部署改善に向けた対応を行う。
- ：全般的な印象としては、昨年と比較して良くなっているとの印象であるが、そのような結果というのは、皆さんの努力の成果だと思う。他方、細かく見ると昨年と変わらないか、悪くなっている項目や部署もある。例えば、コンプライアンスに関しては透明性が重要であるが、『上司への相談のしやすさ』について悪くなっている部署もあり心配である。人が変わったといった事情もあるのかもしれないが、去年よりは今年、今年よりは来年と改善させていかなければならず、そのために幹部たちが具体的に対応を考えていかなければならない。そして、考えたことを具体的にアクションに移していかなければ組織は変わっていかない。項目が多いので、ポイントを絞って、具体的なアクションプランを考え行動していくことが大切である。
- ：意識調査そのものというわけではないが、今は働き方改革と言われるように、ただ決められた場所で働くだけではなく、健康管理、体を動かす等人間らしい生活環境等、同時に改革を進めていかなければいけない時代である。J S C でスポーツ施設の管理運営等を通じて作られたノウハウを市民一般の意識と結びつけることが、国民、市民の健康に対する意識の向上につながり、また、企業の価値の向上にもつながる。そのため、クロスミーティングにおいても、アスリートに限定せず、成果が国民に大きく関係するという幅広い意識を持つことで、モチベーションにつながればいい。時代を自分たちが作っていくという意識があれば、この調査にも変化があるのではないか。
- ▲：アスリートに特化しているわけではなく、国民にスポーツというものを理解してもらうということを意識している。
- ▲：災害共済給付を通じた事故防止の情報やスポーツ施設の管理運営を通じて得た、ノウハウ、データなどを国民に還元している。また、スポーツSDGsについても検討している。
- ▲：とても重要な視点だと認識している。2020年以降は、メダル獲得を狙うトップアスリートはもとより、スポーツを通してJ S C のノウハウを多くの国民に還元していくことが大切である。
- ▲：大東理事長のリーダーシップの下、スポーツ振興だけにとどめず、国民生活を豊かに。という意識を持たないといけないということは、基本理念、コーポレートメッセージでも掲げている。既存のものを更に進化させていかなければならない。我々にとっては、運営点検会議で委員の方からいただいたご意見は、大きな後押しとなる。
- ：自由記述で「残業が多く、自分の時間が持てないスタッフが偏在している」との意見があるが、事実であればマネジメントの問題であり対策が必要である。
- ▲：法令的には36協定を組合と結んでおり、取り組みは行っている。36協定内で超勤時間の偏りはあるが、部署内での偏りが無いよう取り組んでいる。
- ：偏在というのは、誰か一人しか対応できない、代わりがない仕事のやり方等、システム的な問題がある。放置していると、いつまでも変わらない。残業が偏っているというのは、働き方改革の時代によくないことである。

- ▲：人件費が削減されている中、業務は増えており、幹部も頭を悩ませているところではある。内部のリソースをどうしていくか、あるいは外部をどう活用していくか考えていかなければならない。
- ：自由記載のピックアップについて、役員に知ってほしい、対応してほしいという要望の表れではないかを感じる。「勤怠管理、旅費管理の書類が多く煩雑」「フィードバックがない」等一つ一つは細かいことであり、役員が直接手を下すことではないが、意見に対し、目配りをして目に見える成果を見せることが大切である。
- ▲：ご指摘の通り、ICT化などより業務の効率化を進めていきたい。
- ▲：各部署の業務全般にわたる見直しを行い、特に業務の効率化に資するICT化について判断していきたい。

(4) 大規模国際大会に向けた情報セキュリティ対策（令和元年度重点的な課題）

資料4に基づき、小菅理事から大規模国際大会に向けた情報セキュリティ対策について報告した。

(5) 日本青年館・JSCビルの今後の活用等について

資料5に基づき、小菅理事から日本青年館・JSCビルの今後の活用等について報告した。

（最後に、小菅理事より次回の会議は10月開催予定と説明）